



定額一冊五圓、月金五圓、郵費五圓
廣告料五號十二字、日金五拾圓
日曜祭日の翌日休刊
發行所 常磐新報社 常磐新報社
印刷所 常磐印刷株式会社
電話 六二〇〇
社址 常磐新報社

成辰役の回顧

平陽老人

十一、平方面及び
其他の動き

七月二日米澤藩の兵一中隊を須賀川に出し岩城を援けんとし守山を経て平に進む。

七月三日伊達慶邦、白河の形勢東軍に不利なるを以て自ら出で、諸軍を督せんとす。偶々病あり藩相坂英力をして之に代らしめ、親ら賜ふに各刀を以てし、且命じて曰く苟も號令に違ふ者あらば斬つて以て三軍に徇へよと、英力感激し兵を率ゐて發す。

此の日(七月三日)平城より兵一中隊を出して、常陸笠間の城主牧野備前守が中壁村(中神谷)の政廳を襲ふて守兵を走らし、進んで藥王寺(大野村)の西兵を攻撃す、以何西軍は平瀧、泉、野田、湯長谷、小名濱に屯營して専ら休養に勉む。五日黄昏候報して曰く、西兵湯本村(湯本町の西南一里餘)に屯集すと、仙臺兵夜襲して之を破る、七日東軍土工を督し三尾村、七本村の要衝に壁を築き、成兵二小隊を置く。
此の日(七月七日)仙臺の

八幡祭り

盆踊 (下)
浦島太郎

將監森主税は棚倉城を恢復せんとし、兵を率ゐ郡山を経て三春に進む。

當地方の盆踊には世に知られたるジャンガラ念佛をも含み之は新佛供養の爲めとあり彼此申すべき要も無之も唯之に伴ふ純なる盆踊、甚句踊に御座候之は風俗壞亂の者と認められ禁止されし長き時代もありし様なるも今は地方的舞踊としてジャンガラ念佛に追隨して認められ少壯男女が一年間の享樂は此時に在りと許りに踊抜候次第に有之候も古より依然として改善せられぬは親子打揃ふては聞くを憚る様なる類廢的なる歌詞や淫猥極まる間投詞を亂發し所謂刹那の氣分を味ふものにて恬然として耻るを知らず、寧ろ之を衆人環視の間に得々然たるかに相見え候は普通教育を受け居る筈なるに如何に下劣の者共よと思はしむるは慨かしは

忌日に可有之即ち國民たる者一に虔敬の態度を以て當日を終始すべきものと存候伊勢神宮や明治神宮には非國民なる淫猥なる亂舞は許さるゝ筈なければ當社も其祭神等に稽へ我町の誇りたるべき境域内に於て其神徳を冒し其聖地を瀆す烏乎

き至りに御座候。

神祇祭祀の古代より現時に亘り國家的に又は地方的に適宜制定せられたるものには四方拜、元始祭、新年祭、月並祭、紀元節、神御衣祭、春秋皇靈祭、神嘗祭、新嘗祭、明治節、大正天皇祭、等許多に候も國民的に祝意を表すべきものも莊嚴鄭重に追遠の思を致すべきもの等夫々の相違有之様存候然して皇室關係の社には國民より是も崇敬せらるる伊勢神宮、明治神宮を初めとし到る處に祀られ居る一として今述べつゝある八幡神社に御座候。

歴史に暗く正確には承すも不致候も八幡の祭神は三韓征伐の神宮皇后も御母とし徳澤四海に洽き仁徳天皇を御子とせる應神天皇と承知致候夫れは武徳に輝かせられ候は勿論に可有之座論語が傳來し造船が勧められ縫工製織の輸入等文教工藝

洋服のブ
ラン掛は
塵埃のつ
き易い肩の邊とズボンの膝から下を念入にすること肝要

ノート

の萌芽は此御代に發したる者にて如何皇徳の偉なるかは想察に難からず、然れども祭日と定り居るは多分御

うまうまう世の物を思ふより暮るゝ間なくし戸をさしにけり
B 明易し
明易くなりしものかな書き更けてしばらく居るに白みそめたり
ふし穴の白めく見つゝいまだかもうた想ひ居り生活のうたを
しらゝととぼそすき入る朝光のはたゝきさみし原稿紙の上

うまうまう世の物を思ふより暮るゝ間なくし戸をさしにけり
B 明易し
明易くなりしものかな書き更けてしばらく居るに白みそめたり
ふし穴の白めく見つゝいまだかもうた想ひ居り生活のうたを
しらゝととぼそすき入る朝光のはたゝきさみし原稿紙の上

うまうまう世の物を思ふより暮るゝ間なくし戸をさしにけり
B 明易し
明易くなりしものかな書き更けてしばらく居るに白みそめたり
ふし穴の白めく見つゝいまだかもうた想ひ居り生活のうたを
しらゝととぼそすき入る朝光のはたゝきさみし原稿紙の上

うまうまう世の物を思ふより暮るゝ間なくし戸をさしにけり
B 明易し
明易くなりしものかな書き更けてしばらく居るに白みそめたり
ふし穴の白めく見つゝいまだかもうた想ひ居り生活のうたを
しらゝととぼそすき入る朝光のはたゝきさみし原稿紙の上



文藝誌「草汁」より
六月抄
高木風郎

静けさを室に盛るてふいち早く暮るゝ間のある戸をさしにけり
A 戸がす
高木風郎

時代ハ有價證券デス
手輕ナ理想的六分五厘配當當社ノ御利用ヲ乞フ。
簡單ニ金融モ致シマス。
各地出張所代理店募集。
高級社員招聘
帝都證券株式平支部
平町白銀町松崎ビル内
東京モリス會社トハ全然別會社デ關係有リマセン誤解ノ無イ様願ヒマス。

喜多流謠曲と仕舞の
お稽古をお勧め致します
平田町六九
喜多流 謠曲 仕舞 白土會
◇詳細は本會へ御問合せ下さい。

品質第一
電話二六八番
平搾乳所
平町・九品寺前

井坂醫院
婦人科 産科 花柳病科
平町田町 電話五五九番

来る二十日

秋刀魚解禁

本縣漁船に許可證

既報秋刀魚漁獲禁止の期限は来る廿日を以て愈々解禁となるので郡下の秋刀魚船は續々北七を初め十八日頃迄には殆んど出漁しその數三十餘隻に達する模様であるが過般福島、茨城、宮城各縣當局が協議の結果出漁船には許可證を交付する事になつたので小名濱水産試験場辻野青木兩技手に夫れ々々女川港や石巻港に出張して本縣出漁船の監視並に許可證の交付に當る事になつた

平第三校級長

平第三校に於ける各學年の今學期正副級長は左の如くである

- (三ノ一) 木村康 阿部愛子 (三ノ二) 菊地堯雄 青木藤枝 (三ノ三) 橋本孫四郎 金澤キヨ子 (四ノ一) 寺門武彦 永島佳子 (四ノ二) 吉田眞一 影山サト (五ノ男) 松崎惣兵衛 今田實 (五ノ女) 白土貞子 川崎初子 (六ノ男) 植村力夫 諸橋富彌 (六ノ女) 高田秋子 高萩秀

堤防土砂に埋り

海水田畑に侵入

けふ佐糠區長其他が代表 小林土木監督所長に陳情

石城郡植田町字佐糠岩間地内にある汐除堤防は去る大正十三年に長さ六百間に亘る鮫川護岸並に海岸汐除堤防として設置されたが最近土砂の爲め埋没し暴風の際には海水が浸入して附近農作物に大被害を與へつゝあるので本十四日同字區長古川定次郎其他の代表者は小林平土木監督所長を訪問堤防の改修に付いて陳情した

警女級長

本日任命式

警城高等女學校では今學期の正副級長を左の如く決定本日任命式を行つた

- (一ノ一) 熊トリ子 立花

赤井河川竣工

石城郡赤井村では同村大字

- キミ (一ノ二) 久保木ヨネ 堀エマ (一ノ三) 飯島しげ 小野ヒデ (一ノ四) 木田カクヨ 佐藤繁子 (二ノ一) 白土ワカ 阿部良枝 (二ノ二) 根本久子 葉花トミヨ (二ノ三) 堂野喜美枝 若松キミ (二ノ四) 唯野秀子 藤田順子 (三ノ一) 大島幸子 田崎富美子 (三ノ二) 作山文子 佐藤美代子 (三ノ三) 鈴木サタ 田名綱キミ (三ノ四) 有坂敏子 赤塚千代子 (四ノ一)

選手に偏せず

新人養成

野球チームを 警中の各級に

警中野球部では從來部員のみ練習に努めてゐたが今は優秀なる選手を養成する爲め二三年以上の各クラスに一チーム宛を編成し来る二十日より毎週水曜土曜日の放課後對抗試合を行ひ新人の養成に努めると

書道進む

平第二校で課外教授

平第二小學校では去る七月以來書道の國華會支部を設け海老原一蛭田、熊谷、松本、草野各訓導指導の下に毎日二時間宛課外教授を行つてゐるが現在會員は三百名あり去月中本部に於いて審査の結果七級より八級に進級した児童は二百四十七名で成績優秀を爲めに入賞

産馬口評

區長が打合

石城産馬畜産組合では来る十八日午前十時より團體事務所樓上に於いて區長會を開き本年度事業及び品評會開催に就いての打合を行ふ

廿五日が創立二十週年日に當るのを午前中に同所にて記念式を挙げ午後からは組合思想普及の映畫會を催すと

法曹チームが

勇躍して練習

平法曹團野球部では来る十月八日郡山市麓山グラウンドに於て福島地方裁判所管内第二回法曹野球大會が開催される事になつたので目下第一校グラウンドで猛練習中であるがメンバーは左の如く参加チームは福島、若松郡山、平、白河等で昨年の優勝は福島チームであつた

大浦信用記念

石城郡大浦村信用組合では来る

江名國補交附 石城郡江名町字仲ノ作漁港の改修工事は工費十五萬圓を以つて七八兩年度繼續事業として行はれ本年度は工費十萬五千圓にて着手すべく豫てより政府の補助金交附方を申請中の處此程主務省より五萬六千二百五十圓の補助を交付する旨の指令があつた

忠魂碑の

附近清掃

學校では来る十八日の滿洲事變勃發二週年記念日に際し前日は松ヶ岡公園忠魂碑附近の清掃作業をなし當日は職員生徒一同で参拜する由

平町人事

回出生

- △鎌田六五 小林武男氏 三女泰子
- △播磨小路五 村上清氏長男男利
- △長橋町五十 岩谷清七氏姪ナツ子(九ツ)

回出生

△鎌田六五 小林武男氏 三女泰子

川崎小鳥

具燒きの失敗

健康な一面に非常な食

味、残念ながら變質してカビを生じ、やむなく捨てた……』是れには流石に僕も落膽した。正に食べ時のは「シロ粉」を吹き出して居たのを、先生はカビと見られたいらしい。何んといふ勿體ない事をなすつたんだらうと残念でならず、先生に會ひました時、此の旨を口説き立てると「さうか、知らぬ事とは云ひながら、正に失敗々々、山崎さんへもよく詫びてくれ給へ」と如何にも遺憾千萬らしい態度で申された。

△然るにその後、先生からの來書に曰く「折角の珍

平新川町十九 外産婦人科木村病院 電話一六四番

耳鼻咽喉科専門 鈴木醫院 醫學士 鈴木正男

鈴木醫院 醫學士 鈴木正男 平町田町(電話五八番) 藤田女學校前

飛行機二十臺

小名濱に連日が行

所澤飛行學校の練習

所澤飛行學校では飛行演習の爲め本月下旬一週間に亘つて小名濱所澤間を連日飛行する事となり教官山崎武二中尉は小名濱海岸の着陸場並に氣象觀測を爲し昨十三日歸校したが参加飛行機は卅台に達し壯觀を呈すと

では去る八月上旬より工費三百圓にて改築中であるが昨十三日盛大な上棟式を行つた

健腦丸本舗 東京市平署に感謝 日本橋區通り三丁目健腦丸本舗丹平商會では既記の如く同店外交員小山政行が平驛待合室で大金入りトランクを窃取されたが平署の活動で犯人を檢舉し被害金品が無事に同商會へ戻たので本十四日東京の丹平商會より平署宛刑事協會に寄附したとして金三十圓の爲替を送附した

バザーに 音樂會開催

磐女の催し

磐城高等女學校では来る十月八、九の兩日開催されるバザーと共に八日午後一時より音樂會を催し一般觀覽者に聴取せしむる事になつたが曲目はピアノ獨唱等で卒業生も二三名出演する豫定であると尚バザーの各係員は左の如くである

- (裁縫手藝品) 佐々木 森
- 大川 有馬 淡路 鈴木 應 穴井 山口 新妻 鈴木光(圖書手工) 酒井 (食料品) 内村 土岐 武田 安延 金澤(化粧品) 志村 菅波(會計) 佐藤 大内(受付) 森内 古澤 羽山

寶國寺上棟式 石城郡飯野村字北白土の寶國寺

變死体の 身元が判らぬ

石城郡豊間村字鹽谷地内に年七十七才位木綿袴の單衣を着た乞食態の變死體あるを去る十二日午後一時頃通行人が発見届け出たので平署員檢視したが身元判明せず同村役場で假埋葬に付した

赤井諏訪祭禮

石城郡赤井村字深田地内に鎮座する諏訪神社の祭禮は明日五、六の兩日行はれ餘興として映畫、盆踊等がある

滿洲事變

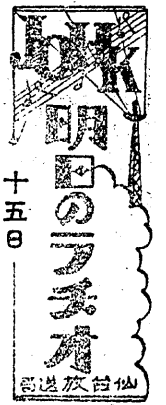
勃發記念日に 國旗を揚ぐ

前日は旅團長の 大講演會を開催

平町役場では来る十八日が滿洲事變勃發の二週年に當るので時局柄一般市民精神の作興の爲め既報の如く在郷軍人分會と聯合して長谷部旅團長を招き前日第三小學校に國防大講演會を催すが十八日の當日は市内全戸の國旗掲揚を行ふべく本日各區に通牒を發した

飯野消防寄附 石城郡飯野村大字北白土字片岡

消防小頭永山正男氏に此程病死した實母の遺志により



今晩は北風の風 晴曇半し明日は南東の風雲

今晩の部

- 後六、〇〇 子供の時間 (お話)「あゝ小波のおちさん」江見水蔭
- 後六、二五 英語講座(二) 岡田實麿
- 後七、三〇 趣味講演「書題に就て」菅橋彦
- 後八、〇〇 謡曲(獨吟三題の内)二井寺 寶生重英
- 後八、四五 哥澤「薄墨」
- 後八、五五 ラヂオドラマ「常長月の浦の船出」神田五郎他大勢
- 後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組預告
- 明日の部
- 前六、三〇 基礎英語講座(三) 岡倉由三郎
- 前九、一〇 料理献立
- 前一〇、三〇 家庭メモ

神官方忍入の 賊は大もの

出獄後間もなく 横濱其他で盗む

既報去る十二日朝石城郡湯本町縣社温泉神社々司三函直元氏方より現金七十三圓と百圓預入の貯金通帳を窃取して平署に檢舉された長野縣松本市西町生れ窃盜前科六犯高見孝治(三)は其後引續き平署で餘罪を取調べの結果七月名古屋刑務所を出獄後間もなく横濱市に飛び神奈川區岸邊町高田浩一方洋間より時價百圓の金側時計を窃取逃走去月中旬頃本縣に入り飯坂温泉千人風呂脱衣場より金指輪外四件を窃取して郡下に潜り込んだものであると

裁判所だより

- △城郡磐崎村大字上湯長谷字力石八四自動車運轉手志賀順平(二)は去る五月十八日午後三時頃乗合自動車を運轉疾走中入遠野村大字大平地内縣道にて斷崖から墜落し乗客前田清美及び菅原勇之助に各全治約十日間を要する傷害を與へ業務上過失傷害罪として罰金六十圓
- △双葉郡大堀村大字酒井字塚前一二農高田久治郎(五)は去月下旬同村地内高瀬川で禁止漁具を使用し鱈一尾

青森縣人會 在平青森縣人は今回新たに縣人

H.K.放送部編輯 前二〇三五家庭部 「夏の家具の藏ひ方」山本秀太郎

陸軍軍醫監 木村辰次

- 後六、〇〇 (子供の時間) 童謡 獨唱新島弘 服部悦子 齊唱 長谷山雛菊音樂會員
- 後六、二五 基礎佛語講座(二) 目黒三郎
- 後七、三〇 講演「問題は命であつた」名古屋醫科大學教授 醫學博士 長松英一
- 後八、〇〇 謡曲(獨吟三題の内) 梅若萬三郎
- 後八、四〇 俚語「上野翁挑」その他
- 後九、一〇 萬歳「根問ひ葉問ひ」東明四郎千歳家玉八

平職案紹介所發告

- △女中 二十前後 尋卒 月五圓(平町某)
- △菓子製造見習 二十以下 尋卒 月五圓(平町某)
- △小店員 十六才 尋卒 仕着小遣(平町某)
- △小間使 十六才 尋卒 月五圓(平町某)
- △職を求める方
- △看護婦見習 十九才 産婆校卒 給料面談(湯本町某)
- △雜夫 四十六才 尋四修 給料面談(内郷村某)
- △店員 二十才 青年校卒 給料面談(神谷村某)
- △料理人 二十三才 中卒 給料面談(鳥取縣某)



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴演
山本英春畫

第四十回 血に飢ゆる村正

おみちを側女に

正則公といふ人は元來色氣のごさいませぬ無骨の人ではありますけれども、此のおみちが頗る氣に入りましたものと見えて吉村又右衛門へ對して

己むを得ず御受けをいたしました、勿論老臣方に於いて支度萬事は整へまして、愈々當日は十八艘の御船を浮べ、白地に黒く源氏車を現はしたるのぼり、三段鳥毛の船印破れ芭蕉の小纏を

嫌殊に宜しく益をあげて暫らく御酒宴をございます當日は吉村又右衛門御供に從ひ居ります、御覽に相成り正「コレよ」又「ハ、ッ、召されましたか」

正「おみちと申する者同船申付けたが如何にいたした」又「お供船に控へて居ります」

正「苦しいないはへ呼べ、目通りを免す、益をつかはずであらう」

又「御意に従ひ御供の内に加へました、然し御側近

な鹽梅、又右衛門困つた事が出来たと思つたが、太守の御是非に及ばず暫らくすると條原と申す老女が附いておみちが立出つる様子を見ると、白の重ねてございまして其の上へ襦袢をまとひ頭は丸まげにいたし、誠に品格よろしく、遙下手に退つて頭を下げる

正「申上げます、御意に従つて馬淵源十郎後家みち罷り出でましてございます、御目通り仰付けられ有難さ仕合せに存じます」

正「明十三日宮島遊覽の折に、彼本船に打乗せ、益きを遣はす」と仰せ出され吉村又右衛門、大崎玄蕃等吉「夫はお宜しくございませぬ、既に御目通り許され御褒美を賜はれば充分にござります、追つて伴百太郎成長の後御取上げに相成れば、是に上趣す御仁恵ございませぬ。殊に御目見得以上身分の者の妻なれば格別何にいたせ以下の者の後家を御遊覽の御供仰付けられ御益を下さると云ふは過分にござります」

ととおめ申すを、正「苦しいない斯様な者に目を掛けつかはすに於いては領分一同の者従つて忠孝の道を重んずるに相違ない是非連れる」

と仰せられ本人へ申聞けると強て辭退をいたしました、藝備兩洲の主横紙破りの正則公、一旦云ひ出しは決して跡に引き寄せん

立て、正則公は船の中央に御控へになつて居る、四海波風穩かにと、船子の者一同に船歌を唱ひ、既に宮島の沖立出でました所が、海上穩かにして疊を延べたる如く、左衛門太夫正則御

くお招きさは正「苦しいない、重ねて止めるな」

モウ其時分には大分御酒も廻りまして見え、何となく御兩眼血を注いだやう

正「女子の身をもつて父の仇討をいたしたる天晴の者益きをつかはす是へ進め」

正「うい奴じや今日より予が傍らに召使うであらう」と云ひながら、酌酌の餘り左の手を延ばしておみちの袖を押へ、グイと手許へ引寄せに相成りました、おみちは其手を拂ひまする途端にどういたしたか左衛門太夫の左の頬をビンヤリと打ちましたから、恐れ入つて跡へ下り



一冊の代金で御希望通りな五冊の雑誌が自由に讀める川崎巡回文庫

看護婦急派の求めに應じぬす

平町南町平看護婦會

毛糸

今年度新色全部揃へました。何卒御来店下さい。ハシモトヤ糸店

旭硝子株式會社製品 板ガラス

内科一般 難波陸

川井内科診療所

内科一般

ハシモトヤ糸店

松崎硝子製作所

旭硝子株式會社製品

内科一般